

トビウオ通信 (R7 第1号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和6年漁期前半(8月～12月)の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和6年漁期前半(令和6年8月～12月)の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。1隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業(かけまわし)」と2隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業(2そうびき)」の動向について紹介します。

小型機船底びき網漁業(かけまわし)

1隻当り漁獲量は平年を下回るが金額は平年並み

島根県の小型機船底びき網漁業(かけまわし)34隻の令和6年漁期前半(令和6年9月1日～12月31日)の総漁獲量は1,156トン、総水揚金額は7億4,222万円でした。1隻当り漁獲量(以下、CPUE)は35トンで平年を12%下回りましたが、水揚金額は2,249万円です。平年並みでした(平年値:45トン、2,251万円)。

ソウハチ、ムシガレイとも平年を下回る

主要魚種であるソウハチのCPUEは3.7トンで、前年並みで平年の6割となり、前年に続き低調な水揚げでした。ムシガレイのCPUEは1.1トンで、前年の9割、平年の7割となり、4期続けて低調に推移しました。メイタガレイのCPUEは0.1トンで、前年の4割、平年の1割の水揚げでした。

ケンサキイカは再び低調、ヤリイカは好調

ケンサキイカのCPUEは0.1トンで、前年・平年の1割未満であり、復調の兆しがみられた前年から一転し、令和元年漁期以降4期続いた低調な水準に再び戻りました。ヤリイカのCPUEは4.6トンで、前年・平年を上回る好調な水揚げでした(前年の1.5倍、平年の1.7倍)。

ニギスは好調、アカムツ、アンコウ類、キダイは平年を下回る

ニギスのCPUEは5.9トンで、前年の1.5倍、平年の1.6倍と好調な水揚げでした。アカムツのCPUEは1.7トンで、前年の9割、平年の8割の水揚げでした。アンコウ類のCPUEは4.2トンで、前年の9割、平年の8割の水揚げとなり、ここ4期は減少傾向にあります。キダイのCPUEは1.9トンで、前年・平年を下回る水揚げでした(前年の7割、平年の6割)。

その他、アナゴ類のCPUEは2.7トンで、前年並みで平年を下回る水揚げでした(前年の1.1倍、平年の8割)。マダラのCPUEは1.0トンで、前年・平年を下回る水揚げでした(前年の7割、平年の4割)。

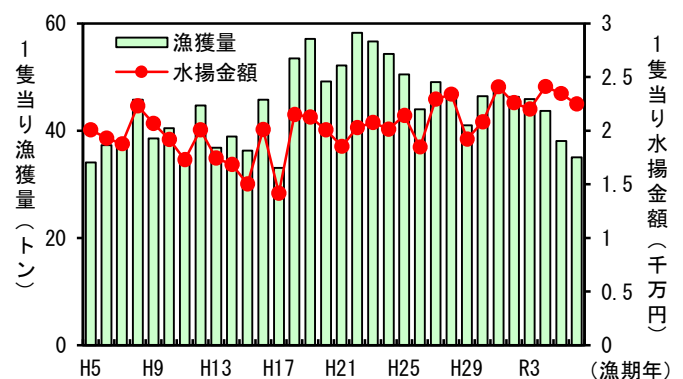


図1 小型機船底びき網漁業における1隻当り漁獲量と水揚金額の動向(各漁期年の9月～12月)

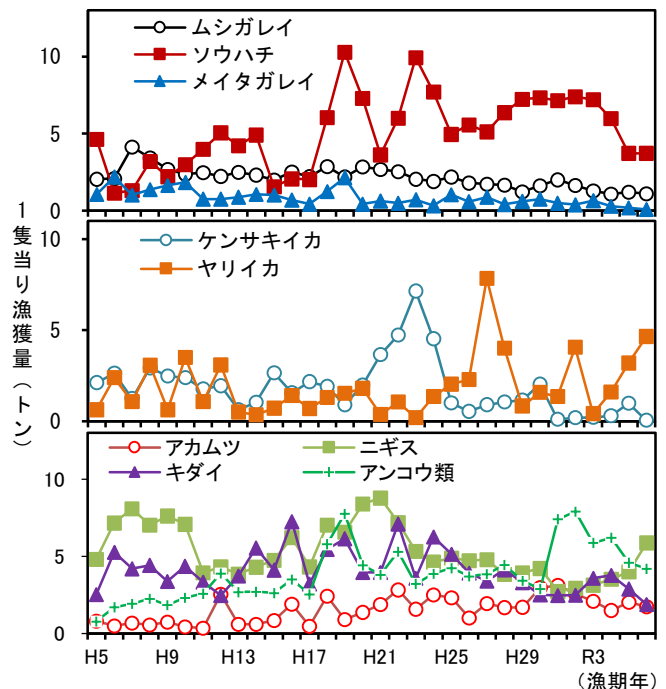


図2 小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(各漁期年の9月～12月)

<文中の語句説明>

- ☞ 平年は、過去10年[平成26年漁期～令和5年漁期の漁期前半(8月～12月)]の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。

沖合底びき網漁業 (2 そうびき)

1 統当り漁獲量は平年を下回るが金額は上回る

浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業(2 そうびき)4 統(8 隻)の令和 6 年漁期前半(令和 6 年 8 月 16 日～12 月 31 日)の総漁獲量は 1,003 トン、総水揚金額は 7 億 9,000 万円でした。1 統当り漁獲量(以下、CPUE)は 251 トンで平年を 19% 下回りましたが、水揚金額は 1 億 9,750 万円と平年を 10% 上回りました(平年値:308 トン、1 億 7,900 万円)。

ムシガレイ・ソウハチともに平年を下回る

主要魚種であるムシガレイの CPUE は平成 21 年漁期以降、長期的な減少傾向にあり、今期は平成元年以降で過去最低の 9.3 トンでした(前年の 8 割、平年の 3 割)。ソウハチの CPUE は、今期は 16.4 トンで前年を上回りましたが、平年を下回る水揚げでした(前年の 2.0 倍、平年の 8 割)。ヤナギムシガレイの CPUE は 7.7 トンで、前年・平年並みでした(前年の 1.0 倍、平年の 1.0 倍)。

ケンサキイカは不調、ヤリイカは好調

ケンサキイカの CPUE は 4.7 トンで、前年の 3 割、平年の 4 割となり、近年では好調であった前年から一転し、令和元年漁期以降 4 期続いた低調な水準に再び戻りました。一方、ヤリイカの CPUE は 10.4 トンで、前年の 6.1 倍、平年の 1.5 倍と 3 期ぶりに好転しました。

キダイは平年並み、アカムツは平年を下回る

キダイの CPUE は 40 トンで、平成元年漁期以降で過去最高を記録した令和 4 年漁期は下回りましたが、堅調な水揚げが続いています(前年の 9 割、平年の 1.0 倍)。アカムツの CPUE は 20 トンで、前年の 8 割、平年の 6 割となり、3 年続けて前年を下回りました。

ニギスの CPUE は 1.0 トンで平年の 3 割、アンコウ類の CPUE は 13 トンで平年の 7 割、アナゴ類の CPUE は 22 トンで平年の 8 割の水揚げでした。

その他、令和 4 年漁期以降、今漁期もマダイが安定的に漁獲され、CPUE は 20 トンで、平年の 1.5 倍の水揚げでした。また、マダラの CPUE は 19 トンで前年の 2.2 倍、平年の 1.7 倍と好調な水揚げでした。

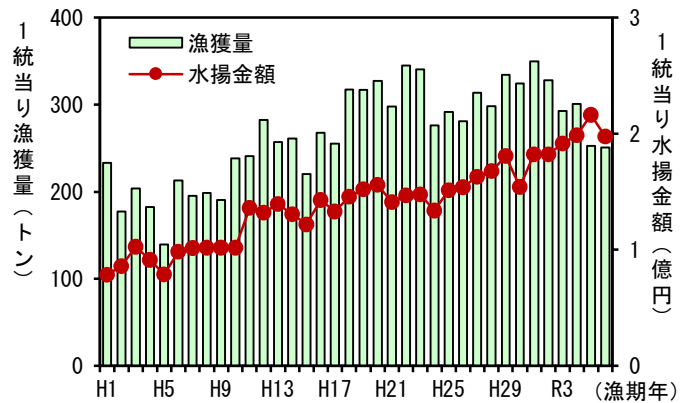


図 3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における 1 統当り漁獲量と水揚金額の動向(各漁期年の 8 月～12 月)

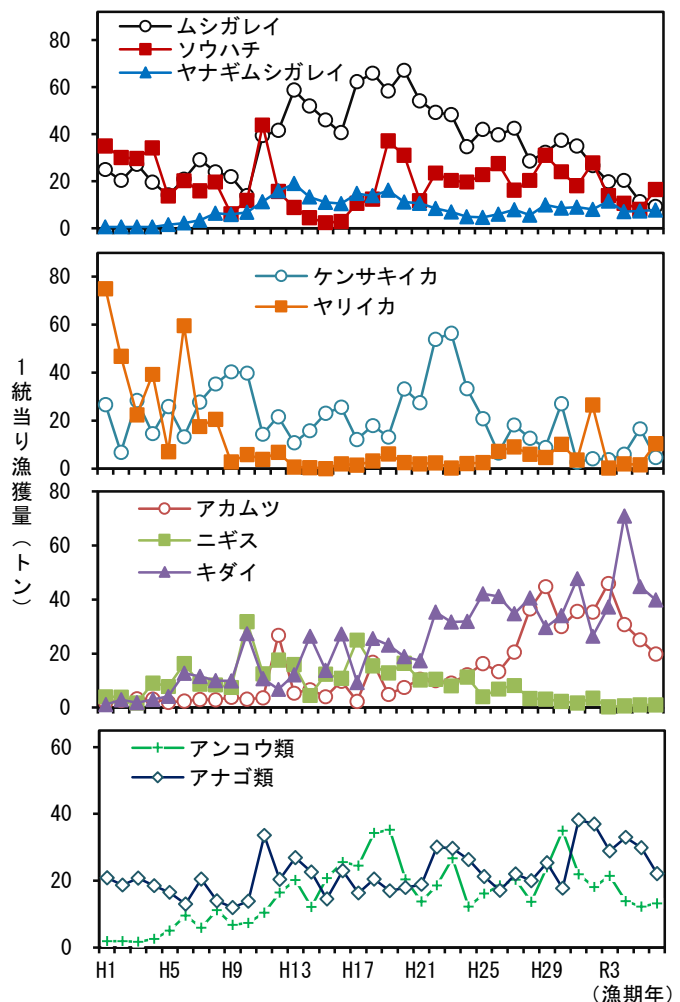


図 4 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(各漁期年の 8 月～12 月)